

2025年8月28日(木)

デジタルアーカイブ学会地域アーカイブ部会 地域アーカイブ活動紹介

映画館情報の蓄積と可視化： データベースサイト「消えた映画館の記憶」の取り組み

澤田佳佑（東海映画館文化研究会）

自己紹介

これまでの取り組み：発表等の活動

取り組み

サイト「消えた映画館の記憶」の構築

「消えた映画館の記憶」を用いた全国の映画館地図作成

「消えた映画館の記憶」を用いた実地調査

問題意識と課題

自己紹介

澤田佳佑（東海映画館文化研究会）

愛知県刈谷市出身・在住。個人としてアーカイブ活動に取り組んでいる映画ファン。ウェブサイト「消えた映画館の記憶」
(<https://hekikaicinema.memo.wiki/>)

- ・戦後の日本に存在した約1万館の映画館をデータベース化。
- ・日本各地に現存する映画館建築を調査・発信。

地元から始まった映画館調査

刈谷日劇は1954年(昭和29年)から70年以上継続して営業する愛知県唯一の一般映画館。

地方都市や農村部の映画館については驚くほど情報が残っていない/オープンにされていない。

映画に関する調査研究活動は作品(フィルム)研究が主であり、ノンフィルム資料の研究が乏しい。映画館研究はさらにマイナーな分野。



これまでの取り組み：発表等の活動

2017年

サイト「消えた映画館の記憶」の作成開始。

2024年

国立映画アーカイブが主催する全国映画資料アーカイブサミット2024に登壇。タイトル「映画資料最前線 映画館文化発掘の試み」。

慶應義塾ミュージアム・コモンズの学術雑誌『The KeMCo Review 02』に研究ノートを発表。タイトル「映画館情報の蓄積と可視化：戦後の日本における消えた映画館」。

2025年

東海地方の廃映画館に焦点を当てた78Pの同人誌『映画館のカケラ【東海編】』を作成。実店舗&ECサイトで販売。

名古屋でミニ研究発表「興行街 大須の映画館」を開催。

京都のおもちゃ映画ミュージアムで研究発表「消えた映画館の発掘 近畿地方に残る映画館建築」を開催。



サイト「消えた映画館の記憶」の構築

ステップ1

毎年発行されている『映画館名簿』から館名と所在地を抽出し、「消えた映画館の記憶」でテキストデータとして公開。(一次的データベース)

名古屋市 (市外電 052)		50館	人口 2,101,291
中	区	12館	
⑩名古屋東映劇場	460 錦3-24-3	(971)3440	東 映(株) 岡田 茂 市村 昇 鉄1 814 映
⑩名古屋東映パラス	460 錦3-24-3	(971)4012	東 映(株) 岡田 茂 市村 昇 鉄地 297 洋
⑩名古屋東映パラス2 納屋橋劇場	460 錦3-24-3	(971)3440	東 映(株) 岡田 茂 市村 昇 鉄2 140 邦洋特
⑩名古屋宝塚劇場	460 栄1-2-3	(231)4038	中部 興行(株) 石田 敏彦 水野 洪雄 木1 286 邦特
⑩名古屋宝塚劇場	460 栄1-2-6	(231)7152	東 宝(株) 松岡 功 立木 卓 鉄2 958 宝
⑩名宝シネマ	460 栄1-2-6	(231)7156	東 宝(株) 松岡 功 立木 卓 鉄3 180 宝洋
⑩名宝スカラ座	460 栄1-2-6	(231)7154	東 宝(株) 松岡 功 立木 卓 鉄6 982 洋R
⑩エンゼル東宝	460 栄3-15-15	(262)6540	東 宝(株) 松岡 功 立木 卓 鉄地 380 宝
名古屋ロマン座	460 栄3-17-20	(241)2821	(株)フジオカ 古川博三郎 浅野 英逸 木1 240 邦洋
⑩ヘラルドシネプラザ1	460 栄3-35-34	(241)1581	(株)ヘラルド コーポレーション 古川 為之 高藤 瑛 鉄2 1000 洋R
⑩ヘラルドシネプラザ2	460 栄3-35-34	(241)1581	(株)ヘラルド コーポレーション 古川 為之 高藤 瑛 鉄地 234 洋邦特
ヘラルドシネプラザ3	460 栄3-35-34	(241)1581	(株)ヘラルド コーポレーション 古川 為之 横井いづみ 鉄1 136 洋

名古屋市 (50館)

【中区】 12館

名古屋東映劇場 (錦3-24-3)、名古屋東映パラス (錦3-24-3)、名古屋東映パラス2 (錦3-24-3)、納屋橋劇場 (栄1-2-3)、名古屋宝塚劇場 (栄1-2-6)、名宝シネマ (栄1-2-6)、名宝スカラ座 (栄1-2-6)、エンゼル東宝 (栄3-15-15)、名古屋ロマン座 (栄3-17-20)、ヘラルドシネプラザ1 (栄3-35-34)、ヘラルドシネプラザ2 (栄3-35-34)、ヘラルドシネプラザ3 (栄3-35-34)

ステップ2

年ごとの情報を個別の映画館ごとの情報にまとめなおし、「消えた映画館の記憶」でテキストデータとして公開。建物の同一判定などに膨大な判断や解釈を行っている。(二次的データベース)

名古屋東映/名古屋東映劇場

所在地：愛知県名古屋市中区蒲焼町4-11（1956年・1958年・1960年・1963年・1964年・1966年）、愛知県名古屋市中区錦3-24-3（1969年・1973年・1980年・1985年・1990年・1992年・1995年・2000年・2002年）

開館年：1955年7月21日

閉館年：2002年9月13日

1955年の映画館名簿には掲載されていない。1956年・1958年の映画館名簿では「名古屋東映劇場」。1960年の映画館名簿では「名古屋東映」。1963年・1964年・1966年・1969年・1973年・1976年・1980年・1985年・1990年・1992年・1995年・2000年・2002年の映画館名簿では「名古屋東映劇場」。1963年の住宅地図では「名古屋東映 東映名画座 東映パラス」。1964年の映画館名簿では経営者が東映、支配人が植木正治、鉄筋造3階冷暖房付、定員1600、東映を上映。1971年の住宅地図では「名古屋東映」。1977年の住宅地図では「名古屋東映 東映名画座 東映パラス」。1980年の映画館名簿では経営会社が東映、経営者が岡田茂、支配人が畠中季喜、鉄筋造1階、962席、東映を上映。1983年の住宅地図では「名古屋東映」。1985年の住宅地図では「名古屋東映 東映名画座 東映パラス」。1989年の住宅地図では「名古屋東映 栄東映ホール・東映パラス」。1992年の映画館名簿では経営会社が東映、経営者が岡田茂、支配人が市村昇、鉄筋造1階、814席、東映を上映。1995年の住宅地図では「名古屋東映 2階東映パラス」。2000年の住宅地図では「名古屋東映 地下1階名古屋東映 2階東映パラス」。2003年の映画館名簿には掲載されていない。名古屋東映会館1階。跡地は「サンシャイン栄」建物北側西部。最寄駅は名古屋市営地下鉄東山線・名城線栄駅。

「消えた映画館の記憶」を用いた全国の映画館地図作成

Googleのサービス「Googleマイマップ」上で作成している映画館地図。戦後の日本にあった全映画館を48地域版（47都道府県+東京都区部）に分けて公開。

「消えた映画館の記憶」の情報をベースに、全国900館の公共図書館で閲覧した住宅地図や郷土資料の情報を掛け合わせて作成。



刈谷映画劇場

名前
刈谷映画劇場

説明
1941年6月開館。2000年9月24日閉館。2000年の所在地は刈谷市広小路1-15。跡地はマンション「ユーハウス第5刈谷」。
Wikipedia「刈谷映劇」
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%88%88%E8%B0%B7%E6%97%A5%E5%8A%87>
「西三河地方の映画館 - 消えた映画館の記憶」
<https://hekikaicinema.memo.wiki/d/%c0%be%bb%b0%b2%cf%c3%cf%ca%fd%a4%ce%b1%c7%b2%e8%b4%db>



「消えた映画館の記憶」を用いた実地調査

建物の現存例1：海老劇場

愛知県新城市。1929年(昭和4年)に開館し、1963年(昭和38年)頃に閉館した。建物は自動車整備工場に転用されて現存。愛知県に現存する唯一の芝居小屋建築か。

「海老劇場は東泉寺の山門下にあった。遠山自動車の屋根を覆うタンクは新しいが、建物は海老劇場の建物をそのまま使っている。絵が描かれた天井が残っているのではないか」(聞き取り調査)



建物の現存例2：飯田スメル館 【※解体済】

石川県珠洲市。映画黄金期の1952年(昭和27年)に開館し、1976年(昭和51年)に閉館。その後は倉庫として使用。

2024年(令和6年)1月の能登半島地震で半壊し、同年11月に工費解体された。解体前には市民有志によって映写機や椅子が運び出されて保存されている。



エンタメの礎 奥能登に残す 公費解体の映画館「飯田スメル館」

2024年11月17日 05時05分 (11月17日 10時14分更新)



汚れない状態で確認された飯田スメル館の舞台幕。天女が空に舞っている。珠洲市飯田町で

珠洲に52年ごろ建設

市民有志 幕やスクリーン、映写機保存

映画や大衆演劇が上演され、高度経済成長期に珠洲市中心部にぎわいの象徴だった映画館「飯田スメル館」が能登半島地震で被災し、公費解体された。解体準備中に幕、スクリーン、映写機が見つかり、市民の有志によって保存された。映画や演劇を軸にしたまちづくりの“種火”としてこれらを活用する声も出ている。(沢井秀和)

1952年ごろに建設されたスメル館は、高さ10メートルほどでアーチ状の天井を備え、2階の豪華な内装を含めて1000席ほどがあった。映画が「娯楽の王様」だった60年代ごろまでは多くの人にぎわい、商店街まで列ができる、映画によっては学校単位で鑑賞することもあったという。

『中日新聞』2024年11月17日

建物の現存例3：永楽館

兵庫県豊岡市。1901年(明治34年)に芝居小屋として開場し、昭和初期から戦後の映画黄金期には映画館としても用いられた。1964年(昭和39年)に営業を終了。

平成になって再興の機運が高まり、2008年(平成20年)に復元工事を終えて一般公開された。2025年(令和7年)公開の映画『国宝』ロケ地。



映画『国宝』公式サイト